

「神に従う」

2014年06月22日

22日（日）の主日に読むように勧められている御言葉は、使徒言行録4章13節から31節までで、その19節に「しかし、ペトロとヨハネは答えた。『神に従わないであなたがたに従うことが、神の前に正しいかどうか、考えてください』」とある。

日本が朝鮮を植民地支配していた時代、憲兵をしていた人の話を聞いたことがある。彼は、朝鮮人に神社参拝を強制する命令を負っていた。ところが、クリスチャンは神社参拝をしない。激しい弾圧と迫害を加えたが、頑として応じない。信仰を守り通すクリスチャンに驚かされた。そこで、彼らが読んでいた聖書を読んでみた。聖書（福音書）は弟子たちの挫折を書いている書物であることが分かった。弟子たちの挫折を書いた聖書を読む彼らが、迫害に耐えながらも、神社参拝を拒否することが不思議でならなかった。戦後、彼はクリスチャンになったと言う。

福音書に記された弟子たちは、主イエスを愛し従いながら、師を裏切っている。主イエスが捕縛された時は、一目散に逃げ去っている。第一の弟子を自認するペトロは、大祭司の庭でたき火の明かりに照らし出された顔を見られ、女中から主イエスの仲間だと名指しされた時、三度も否認している。弟子たちは主イエスを理解せず、自分を守るために裏切りを重ねている。福音書は弟子たちの「転びの物語」である。

ところが、使徒言行録の弟子たちは一変している。エルサレム神殿の「美しい門」のそばで、生まれながら足の不自由な人が施しを乞うて座っていた。ペトロとヨハネは、彼に「わたしには金や銀はないが、持っているものをあげよう。ナザレの人イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい」と宣言し、右手を取って立ち上がらせた。エルサレム神殿当局は、自分たちが殺した「イエスの名」によるしるしを問題にした。二人を、最も権威ある最高法院に呼び出し「お前たちは何の権威によって、だれの名によってああいうことをしたのか」と厳しく尋問した。ペトロは「あなたがたが十字架につけて殺し、神が死者の中から復活させられたあのナザレの人、イエス・キリストの名によるものです」と答えている。最高法院の議員たちは「ペトロとヨハネの大胆な態度を見、しかも二人が無学な普通の人であることを知って驚」いた。福音書の弟子たちと使徒言行録の弟子たちは、明らかに違う人になっている。自己保身を図り、師を裏切った弟子たちは、ガリラヤの無学なただの庶民であった。ところが今や、恐ろしい最高法院の議員を前にして、圧倒する論陣を披歴している。最高法院は「今後あの名によってだれにも話すな」と脅し、命令する。それに対し「神に従わないであなたがたに従うことが、神の前に正しいかどうか、考えてください」、私たちは主イエスを証し続けると反論している。

弟子たちに起こった生まれ変わりはどうのようにして起こったのか。復活した主イエスに出会ったという喜びがもたらした。彼らは無残に挫折し、自己嫌悪と絶望の中に放り込まれたが、十字架の死から復活した主イエスとの出会いに神のリアリティの啓示を見、体験したのである。あのように敗れて「転んだ」自分たちを赦してくださる出来事として受け止めた。彼らは「神に従う」ことを第一義とする信仰に高められたのである。この信仰は私たちに可能であろうか。言語化し得ない復活信仰が可能にすると聖書は告げている。主イエスの復活に神を見るということである。